

2023年度事業計画

I. 概要

2050年カーボンニュートラルとグリーントランスフォーメーション(GX)の実現、新たな生活様式・ニーズへの対応、リフォーム・既存住宅流通等の住宅ストック活用型市場への転換など、住生活をめぐっては様々な対応すべき課題がある。また、少子高齢化・人口減少の急速な進展、こどもの貧困問題、空き家・空店舗対策など、住生活と密接にかかわる社会問題も顕在化しており、国においては「こども家庭庁」の設置と子育て支援の充実、空き家対策の強化等が行われる。

さらに、デジタルトランスフォーメーション(DX)等による生産性向上や生活利便性向上が求められる一方、世界情勢の激変等による資材・エネルギーコスト等の高騰と実質賃金の伸び悩みなどによる住宅投資への悪影響も懸念される。

こうした状況を踏まえつつ、「良質な住宅部品の供給・普及」「優良住宅ストック社会実現に向けた貢献」という当協会(ALIA)のミッションを果たすべく、中期活動計画(2020~2025年度)の3項目と、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)達成に貢献するための新プロジェクト推進の計4項目を柱としつつ、社会的要請への対応を重視して、各専門部会、空間等別部会、部品別委員会等を中心に事業活動を展開するとともに、広報部会を中心に積極的な情報発信に努める。

その際、(一財)ベターリビング(以下「BL」)をはじめとする関連団体との連携を密にし、事業活動を展開する。

また、事業活動の効率化・合理化に向けた部会・委員会等のあり方やALIAの収支構造の改善策について、本格的な検討を行う。

なお、2020年の「住宅部品×SDGs宣言」に基づき、項目ごとにSDGsの関連目標を明示し、事業活動が社会課題の解決や住宅産業の持続的発展に寄与することを意識しながら事業を推進する。(2023年度事業計画においては、SDGsの全17目標に対応している。)

II. 主要活動事項

1. 良質な住宅部品の供給・普及

(1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及

[SDGs 目標：3、6、7、12、13、14、15]

- ① ZEH(ゼロエネルギーハウス)等の住宅の省エネ化に関する諸制度や、「こどもエコすまい支援事業」と3省連携による「住宅の省エネリフォーム支援」、「住宅エコリフォーム推進事業」等の国の支援制度について、情報収集・対応方策の検討等を行う。
- ② 断熱性能に優れた外皮仕様について、工務店や一般消費者への普及を進める。
- ③ 開口部の熱性能評価プログラム「WindEye」について、性能から商品等を検索する「逆引き計算機能」の機能向上・充実を図る。
- ④ 住宅の温熱環境と健康に関して、各種研究等の情報収集、普及に向けた取組み

等を行う。

- ⑤ B L-b s 部品を含むB L部品の普及促進に努めるとともに、ユーザーへのB L製品の認知度向上を図る。
- ⑥ 魅力あるB L部品のために、認定基準・評価基準の改訂作業に協力する。

(2) 住宅・住宅部品に関わる新たな課題への対応 [SDGs 目標：3、8、9、12]

- ① 省エネ、働き方改革、子育て支援などの課題に対応するための住宅部品のあり方についての情報収集、調査を実施する。
- ② 2050年カーボンニュートラル実現に向けた各種施策の認知度や課題、省エネ化リフォームの加速につながるキーワードなど、住宅部品と消費者のかかわりを調査・研究する。
- ③ 閣議決定された「GX実現に向けた基本方針～今後10年を見据えたロードマップ～」等に示された「断熱窓への集中的支援」「より性能が高い建材の普及拡大」「今後10年間で14兆円～の投資」等への対応を検討する。
- ④ 次世代の住宅に求められるIoT等の新たな技術・サービスに関し、国や関係機関の研究・施策等の情報収集を行うとともに、今後のALIAの取組み方針・内容について検討する。
- ⑤ その他、国の住宅関連施策や社会情勢等について常に情報収集を行い、新たな課題に迅速に対応する。

2. 「住宅部品の点検」を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献

(1) 安全・安心な住宅部品のあり方の追求 [SDGs 目標：12]

- ① 故障時の危険度の大小や点検のしやすさなどの観点からの住宅部品の類型化を踏まえ、望ましい点検のあり方について研究を進める。
- ② 住宅部品の劣化・故障と買替等に対する消費者の意識や点検行動等を調査し、商品開発や意識啓発等につなげる。

(2) 適切な維持管理（点検）からリフォームへつなげる仕組みの構築

[SDGs 目標：8、11、12]

- ① 「点検」の位置付けの再確認を行いつつ、「住宅部品点検の日」関連イベントを開催するとともに、消費者向けイベントへの参加、消費者団体を通じた普及などを推進する。これらの活動にあたっては、点検キャラクター「ジュウテンジャー」の効果的活用を図る。
- ② 「自分で点検！ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」等の活用により、ビルダー及び消費者への点検文化の普及啓発を行う。
- ③ 住宅部品関連団体との連絡会を継続的に開催し、点検に関する情報共有、消費者への情報発信方策の検討等を行う。
- ④ 住宅部品の点検にとどまらず、経年劣化による危険な部品の取換えやリフォームへの展開方策を探る。
- ⑤ 「住宅リフォーム事業者団体登録制度」や「安心R住宅」など、国のリフォーム関連施策の情報収集・提供、対応方策の検討等を行う。

3. 「ALIA こども応援プロジェクト」の推進

〔SDGs 目標：1、2、3、4、5、10、11、16、17〕

- ① 「こども食堂」への商品等提供について、2022年度に実施した先行モデルケースを踏まえ、全国での本格的な支援を開始し、年度内に2回の支援先募集を行う。
- ② 先行モデルケース及び本格的支援における提供商品等の活用状況等をフォローアップし、支援のあり方や手続きの改善等を検討する。
- ③ プロジェクトの実施状況等について、積極的・効果的な情報発信を行うため、ホームページ・ニュースリリースなど多様な方法による発信を検討・実施する。

4. 情報発信・政策提言・提案の強化 〔SDGs 目標：17〕

- ① 国の制度・予算に関する要望を取りまとめ、(一社)住宅生産団体連合会(以下「住団連」)等関連団体と連携して要望を行う。
- ② 住団連、(一社)ベターライフリフォーム協会、(一社)住宅リフォーム推進協議会(以下、「リ推協」)など関連団体と連携しつつ各種活動を展開する。
- ③ 機関誌(ALIA NEWS)、ホームページ、メールマガジンのそれぞれの特性を考慮しつつ、会員及びユーザーへの情報発信を充実する。
- ④ 研究成果報告会を開催するとともに、各事業の進行に合わせ、情報発信等の広報活動を行う。特に、「ALIA こども応援プロジェクト」による「こども食堂」への支援状況等について、積極的な広報活動を行う。

III. 事業企画部会〔SDGs 目標：全般〕

- (1) 事業計画や予算、各種規程の変更案など、運営委員会への付議事項について、検討を行う。また、各部会・委員会等の活動実態を踏まえた部会・委員会体制のあり方やALIAの収益構造の改善等について、WGを設置して検討する。
- (2) 住生活関連の法令・制度、助成策、金融政策、税制等に関し、情報の収集と対応方針の検討を行う。
- (3) 中期活動計画及び「住宅部品×SDGs 宣言」を踏まえた事業活動の調整等を行う。また、省資源・廃棄物削減や経費抑制に寄与すべく、会議資料のペーパーレス化や印刷物のあり方について検討・試行を進める。
- (4) 優良住宅部品認定制度の見直し等の検討に参画し、ALIAとしての意見集約及び会員への適切な情報伝達を行う。
- (5) 会員に対する魅力充実方策、新規入会の拡大方策等の検討を引き続き進める。

IV. 広報部会 〔SDGs 目標：全般〕

ALIAと会員各社の事業活動を内外に知らしめ存在価値を高めていくために、部会傘下の委員会・WGとともに各部会・委員会等と効率的な連携を図り、下記4点を中心に活動を展開する。

- (1) 環境・健康に配慮した良質な住宅部品の供給・普及と新たな社会要請(脱炭素等)に対応するため、発信する事業活動成果・情報の充実とツールの改良を行う。
- (2) 「住宅部品の点検」を核とした優良住宅ストック社会実現に向け、「点検」の位置付け再確認と浸透を図る。それに伴い、住宅部品点検推進部会と「住宅部品点検の日」の扱いについて見直していく(「ジュウテンジャー」の扱い含む)。

- (3) 「ALIA こども応援プロジェクト」に関し、ALIA のSDGs 達成への取組みとともに当該プロジェクトの活動内容をプッシュ型で幅広く広報する。
- (4) 消費者認知・浸透につながる情報発信方法の向上を図る。

【ALIA NEWS編集委員会】 [SDGs 目標：17]

活動方針

- (1) ALIA 事業の認知度向上に貢献
ALIA NEWS のコンテンツの一層の充実を図り、さらにWEB企画・管理委員会や他部会と連携しながらALIA 事業の認知度向上に貢献する。
- (2) 会員各社へ有益となる情報提供
ALIA、BLの活動内容の紹介や行政動向、市場のトレンド紹介や解説を記事にして、会員各社へ広く情報提供する。会員各社が自分事として捉えられる情報の提供を心がける。

活動内容

- (1) 消費者認知・浸透につながる情報発信・媒体の活用
ALIA の活動や研究成果、住宅部品点検推進活動などALIA の認知・浸透につながる情報や、関連団体等との連携・活用につながる情報を発信する。
例1：ALIA 活動紹介（総会・理事会報告、BL・ALIA 研究成果合同発表会、各部会の調査研究報告書など）
例2：会員各社および団体の事業活動、新技術・新製品紹介（トピックス（受賞紹介他）、新製品紹介、新技術紹介など）
例3：BL活動紹介（優良住宅部品認定基準の制定・改正、サステナブル居住研究センター報告など）
- (2) 関連団体との連携による重点テーマの普及・啓発
ALIA が重点として取り組むテーマを中心に特集を組み、業界の動向などを会員へ発信する。
例：温熱／省エネ、防災／レジリエンス、住宅部品の点検、SDGs 貢献など

【WEB企画・管理委員会】 [SDGs 目標：12、17]

会員相互の理解や交流、情報共有などの利便性を高めること、また、会員内外への情報提供を充実させることを念頭に、WEBサイトおよび定期メールマガジンを企画・管理・運営する。（広報部会、点検推進部会と連携）

- (1) ALIA の主要行事や活動内容を発信する。
例：理事会・総会、住宅部品点検推進活動（イベント等）、SDGs への貢献活動
- (2) WEBサイトの充実を図る。
 - ① 必要に応じてコンテンツの見直し・新規作成を行う。
 - ② 活動成果のPRをする場として整備する。
例：委員会の研究内容や成果の掲載
 - ③ サイト活用を希望する部会・委員会をサポートする。
例：「住宅部品点検の日」関連イベント、消費者普及に向けたコンテンツ作成、記事作成に関する役割分担・承認ルート・ルールを作成
 - ④ 「住宅部品の基礎知識～アメニティCafe」の活性化に向けた検討を行う。

例：アメニティ Cafe 閲覧者アンケートの企画・実施

- ⑤ 住宅部品点検スペシャルサイト「ジュウテン」のアクセス増加・露出強化を図る。

例：定期的な情報発信（ALIA の活動紹介）、消費者普及に向けたコンテンツ・記事の企画、検索サイトへの広告（バナー広告等）、情報発信やイベントを開催する部会・委員会との連携による外部周知、外部機関との連携（メディア・業界団体等）、「ジュウテン」サイトへの誘導・サイト内回遊

- (3) WEB サイトを管理する。

① WEB サイトおよび動画の運用ルールおよび掲載手順の見直しを行い、周知を図る。

② アクセス状況を把握し、必要に応じて各部会・委員会へ提示する。

③ 古い情報を整理する。

④ 新 Google アナリティクスへの対応。

- (4) メールマガジンの企画・配信

① 会員に WEB サイト掲載情報を周知する「定期メールマガジン」を企画・配信する。

② 「住宅部品点検の日」関連イベントの協賛団体へのメールマガジンを検討する。

【イベントWG】 [SDGs 目標：12、17]

中期活動計画を踏まえ、住まい手が、住宅部品点検の重要性に気づき、点検や交換やリフォームを行い、安全で快適な生活を実現するために、以下の活動を行う。

- (1) 「住宅部品点検の日」関連イベントの開催

① 点検からリフォームや住宅の価値向上への展開を意識することで、会員・ビルダー・ユーザー皆が点検を身近なものに感じるようになるイベントを企画する。

② ポスター・チラシの作成、ホームページでの告知や関係先・メディアへの広報、消費者啓発団体と連携した点検推進活動の認知を図る。

- (2) 住宅部品点検推進部会 4 委員会等との連携及び協調

① 上記イベントを点検推進部会 4 委員会とともに検討・実施する。

② 「BL・ALIA 研究成果合同報告会」等、各部会・委員会との協働による効果的イベントを実施する。

- (3) 「ジュウテンジャー」の効果的活用の検討

① 部会・委員会で作成する「ジュウテンジャー」を使った動画等の作成の支援を行う。

② イベント等で使える「ジュウテンジャー」のグッズを企画する。

V. 専門部会

1. 消費者・制度部会 [SDGs 目標：8、9、12、17]

会員各社が提供する住宅設備・建材等の住宅部品が、現在はもとより、将来的にも、居住者の暮らしを安全で快適なものにするため、以下の事業に取り組む。

- (1) 住宅部品と消費者との係りの調査・研究

「点検」（お手入れ）からリフォーム（買替等）に結びつける方策検討の一環と

して、居住者が住宅部品を買い替えた際の実態として、買替のきっかけから決断するまでの行動経緯などの実態を WEB 調査により明らかにする。併せて、居住者が、買替にあたって行政・団体・メーカー・中間事業者等に期待する役割も調査する。調査対象とする住宅部品は、各空間部会と相談して決定する（26 種程度を想定）。

(2) 消費者経営の在り方について

同業種・異業種に係らず消費者接点（施設、イベント、工場、コールセンター等）を訪問し、交流することで、協業への課題抽出等を行い、住宅設備・建材業界の消費者経営の参考とする。

(3) 建築行政・制度情報の収集と展開

他団体等での建築行政情報を入手し、理解を深めるとともに、当業界への影響力を研究する。また、建築基準法で当業界に係る事案の適正な対応方法の知見を深める

(4) B Lからの情報提供および検討事案に対し、必要に応じて ALIA 他部会・委員会と情報交換を行い、課題解決を行う。

2. 環境部会 [SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17]

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、消費者から見た課題把握を行い、今後の普及活動に活かすとともに、国交省・経産省・環境省の環境に関する施策情報の収集・共有を行ない、対策等の検討を行う。

(1) 調査研究事業

政府の掲げる 2050 年カーボンニュートラル実現に向け、下記事項に関するグループインタビュー調査により、住宅分野の各施策に対する消費者の認知度と具体的な課題を把握し、今後の普及活動に活かす。（具体的な調査内容は、リフォーム・施工部会の調査と重複が無いよう調整する。）

- ・省エネ住宅の購入や省エネ改修についての課題把握
- ・住宅・建築物の省エネ表示についての課題把握
- ・太陽光発電の新築住宅への設置義務化についての課題把握 など

(2) 各種施策等の情報の収集・共有と課題把握を行い、対応策を検討する。

- ① 住宅の省エネ化・温熱環境整備に関する国・地方自治体の施策の情報
- ② 住宅の温熱環境と健康に関する各種研究の情報
- ③ こどもエコすまい支援事業、給湯省エネ事業・先進的窓リノベ事業に関する情報
- ④ 国土交通省が行う既存住宅流通、リフォーム施策の情報
- ⑤ 国交省・経産省・環境省が推進する省エネ・省 CO2・ZEH に係る事業の情報
- ⑥ 住団連の住宅性能向上委員会 WG、SWG 活動の情報

(3) 省エネに優れた住宅・施設等の視察を行い、先進事例の情報収集を行うとともに、各社での環境活動の参考にする。

3. リフォーム・施工部会 [SDGs 目標：7、8、11、12、13、14、17]

活動方針

「Ⅱ. 主要活動事項」と国の方針を基本に、以下を重点活動方針とする。

- (1) 住宅リフォーム市場の活性化への寄与
- (2) 建設業界の担い手不足などの課題を解決するため、建設業法における技術者制度の緩和などについて意見の収集や工業会、住団連との協業を行う

活動内容

(1) リフォーム市場の活性化

① 他団体との協業

住団連の住宅ストック委員会、リ推協（市場環境整備委員会、新事業モデルWG、広報委員会）に参加し、省エネリフォームや部分断熱リフォーム工事拡大のための支援策や住宅ストック（リフォーム、既存住宅流通）市場活性化支援策の検討を行う。

② 国への提言

既存ストックの省エネ化、良質なストック形成に繋がる税制・予算（施策）要望についてとりまとめ、住団連・リ推協を通じて国への提案を行う。

③ 情報発信及び収集と共有

リフォーム関連団体へのALIAとしての提案、また他団体から入手した情報の会員各社への情報発信を行う。

(2) 調査研究事業の実施

2050年カーボンニュートラル実現を目指して「2050年ストック平均でZEH基準の水準の省エネ性能の確保」が打ち出され、「住宅ストックの省エネ化」が重要かつ急務であり、国の予算も省エネリフォームに重点投下されている。

このため、省エネリフォームを加速させるキーポイントを消費者視点で調査し提言に結び付ける。（具体的な調査内容は、環境部会の調査と重複が無いよう協議する。）

(3) 技能者問題の検討

住団連の技能者問題委員会に参加し、会員各社からの意見の反映と情報入手および共有を行う。またキッチンバス工業会など関連団体との連携を図る。

4. 住宅部品点検推進部会 [SDGs 目標：11、12、17]

居住者に安全・安心で快適で豊かな住生活を送っていただくためには、住宅部品の経年劣化による事故を防ぐ必要があり、そのためには住宅部品の維持管理をし、居住者が自発的に適切な時期に点検（お手入れ）を行い、異常があれば然るべき対応を行う必要がある。当部会では各委員会の具体的な取組み課題と目標を明確にして活動を行い、住宅部品点検（お手入れ）の普及を推進する。また関連業界と連携して点検（お手入れ）を当たり前化し、故障前の取替やリフォームに導くことで優良住宅ストック社会の実現に繋げていく。

(1) 点検（お手入れ）を当たり前化し、点検（お手入れ）からリフォームへ導く仕組みを構築する。

① 点検普及検討WGが牽引して各委員会と調整をはかりつつ、点検（お手入れ）からリフォームに繋がるツールの企画検討・制作を行う。

② 「自分で点検！ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」の説明対応活動を通して更なる普及啓発をする。

③ 消費者関連団体や自治体（消費生活センター）と連携したイベント（消費生活

講座等)を企画・検討し、居住者への点検文化の普及啓発活動を行う。

④「ジュウテン」サイトのコンテンツ拡充による点検普及啓発とリフォーム促進策を検討する。

⑤ 必要で習慣化されているお掃除・お手入れに点検を付加する検討を行う。必要性から面白さ・楽しさに移行させて拡散する要素を取り入れる。

(2) 点検のあり方を検討し、有用な情報発信・提案を行う

① 住宅部品のカテゴリー毎の点検の意味、位置づけを整理する。

② 居住者の点検行動変容を促すきっかけとなる取組みを提案する。

(3) 関連業界を通じて、点検(お手入れ)を当たり前化する。

① 住宅部品関連の団体との交流を図りながら、関連業界と連携し住宅部品点検(お手入れ)の普及・啓発活動を進める。

② 住宅部品関連の団体に対し、充実させた「ジュウテン」サイトの周知を進め、リンクの拡大とその利用促進を図る。

【点検普及ビルダー対応委員会】 [SDGs 目標：11、12]

ビルダーを通じた消費者への住宅部品点検文化の普及活動を推進し、「ビルダーを通じて消費者に点検するメリット・しないデメリットを認識させ、消費者自ら点検やお手入れすることで、突然の被害にあわない安心な暮らし、適正な時期での住宅部品の交換による費用(お金)抑制ができています。また点検を通してビルダーと消費者の関係が強まり、ビルダーの商売にも繋がっている。」ことを目指し、以下の活動を行う。

(1) 「自分で点検!ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」を用いたビルダーへの更なる普及啓発策の検討・実施

① 上記ツールを用い、住宅団体等でのセミナー開催を通して、ビルダー、リフォーム店への点検普及啓発を進める。

② セミナーを通してビルダー・リフォーム店の点検に関する課題把握を進める。

(2) 点検普及に向けた実態調査・施策検討

① 2022年度実施の点検実態調査事業の結果をもとに、点検普及に向けた施策の検討、計画立案、実施を行う。

【点検普及消費者対応委員会】 [SDGs 目標：11、12]

安全で安心・快適な住生活をおくるためには、居住者が住宅部品の長期使用の危険性を認識し点検・維持管理を行なうことが望まれる。また、これにより良質な住宅ストックの形成、リフォーム需要の顕在化に繋がることが考えられる。点検普及消費者対応委員会では、居住者となる消費者に対し点検文化の啓発・普及のテーマに取り組む。

(1) 消費者関連団体や自治体と連携し消費者への普及啓発活動を行う。

① (公社)全国消費生活相談員協会(全相協)及び(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)

1) 消費者団体職員への普及啓発(住宅部品ショールーム研修会、工場見学、意見交換会の実施)

2) 消費者関連団体や自治体を通じた消費者への普及啓発ツール活用方法の企

画検討（消費者セミナー・講座を通じた普及啓発、消費者団体・自治体イベントの活用）

② 東京都消費者月間実行委員会（東京都交流フェスタ等の出展検討）

(2) 新たな消費者啓発策の企画検討

① 第3回「ジュウテンジャー」ぬり絵企画の検討実施。

② 全相協「出前講座」等で活用できる点検普及啓発ツール

③ WEB 企画管理委員会（スマホ対応）展開課題 他

【業界連携委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

活動方針

住宅部品点検推進部会の活動方針を受けて、優良住宅ストック社会の実現に繋がっていくため、関連団体等と連携し住宅部品点検の普及・促進（点検（お手入れ）の当たり前化）を図る。

(1) 各住宅部品関連団体と ALIA 相互で点検普及に関する情報共有や交流を図り、更に連携を深めながら、関連業界を巻き込み住宅部品点検活動を推進する。

(2) 「住宅部品点検の日」の主旨に賛同する協賛団体を幅広く募り、ALIA 活動の周知を図るとともに、協賛団体を含めた住宅に関わる団体等と連携しながら、活動の拡がりを目指す。

活動内容

(1) 普及・啓発活動の継続・発展

① 「住宅部品点検の日」関連イベントに向け、これまでのシンポジウム協賛団体に加え、新たな協賛団体の獲得を目指す。

② シンポジウム協賛団体を中心に「ジュウテン」サイトの周知を進め、リンクの拡大とその利用促進を図る。

③ 「ジュウテン」サイトの団体ツール掲載部分の充実を図る。

④ リンク済み団体の利用状況等を調査し、今後の利用促進に活かす。

(2) 活動の深掘り・拡がりを目指した取組み

① 関連イベント協賛団体との連携の深掘りに向けた方策（対象団体、仕掛け等）を検討し実行に移す。

② 住宅部品関連の団体だけでなく、消費者団体や住宅生産者団体、リフォーム事業者団体等とも連携した活動の可能性を追求し、ALIA 活動の拡がりを目指す。

③ 上記の活動のため、部会や他委員会と緊密に連携を図る。

【住宅部品点検研究委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

住宅部品点検推進部会の活動に対し、有効な情報の収集や検討、活用及び発信を行う。

(1) 2021 年度の住宅部品の「点検行動の分類・類型化」のまとめを踏まえ、点検の意味、および消費者が行動変容を起こすには、どうあるべきかという課題について取り組む。

(2) 消費者が点検に係わって頂くための課題整理と提案（現行点検ツールへの提案・提言等）

- (3) 住宅部品の取替を促進する点検のあり方を検討し、リフォームにつなげていく視点で取り組む。
- (4) 消費者団体や住宅生産者との意見交換やメーカーの消費者対応部門へのヒアリング等を行い、消費者の点検行動変容を分析検討する。

【点検普及検討WG】 【目標：11、17】

部会内の各委員会の事業計画実施プロセスのチェックを行うとともに、点検（お手入れ）を当たり前化するためのツール企画と活用方法、広報手法についての検討を行う。

- (1) 各委員会が有機的に連携できるよう各委員会方針との調整を行う。
- (2) 点検（お手入れ）に係るツールと企画検討と制作作業を実施するとともに、活用方法について広報部会傘下の委員会とも調整とを行う。

5. SDGs推進部会 【SDGs目標：1、2、3、4、5、10、11、16、17】

会員各社とALIAの社会貢献の一層の明確化による社会的認知度の向上と、各社のSDGsへの取組の機会提供や活動充実のため、モノづくりを通じた取組ではカバーし難い社会問題分野のSDGs達成貢献に向けて、「ALIAこども応援プロジェクト」を推進するとともに、会員各社及びALIAの取組に関する積極的な情報発信を行う。

- (1) 「こども食堂」への商品等提供と活用状況等のフォローアップ
 - ① 2022年度に実施したモデルケースを踏まえ、全国的・本格的な支援に向け、第1回募集で選定された団体等に対し、確実に支援を実施するとともに、第2回目の募集を行う。
 - ② 支援状況・活用状況をフォローアップし、支援の在り方や手続き等の改善を図るとともにノウハウを蓄積し、会員による商品等の提供検討に活かせるよう、その成果を情報提供する。
- (2) 「ALIAこども応援プロジェクト」に関する情報発信策の充実検討
 - ① 広報部会と連携し、プロジェクトの実施状況等を2022年度に開設したホームページ特設ページに反映するとともに、積極的な情報発信の検討を行う。
 - ② こども家庭庁や関連団体の取組状況や動きを把握し共有する。

VI. 空間等別部会・部品別委員会

1. トイレルーム部会 【SDGs目標：3、6、7、8、12、17】

【温水洗浄器委員会】【洗面化粧ユニット委員会】

消費者に「快適かつ安全で安心な住生活をおくっていただくため」の情報提供に取り組む。また、商品およびその周辺情報の収集と共有や課題に対応する。

- (1) 住宅の省エネ化・温熱環境整備に資する住宅部品の施策対応に向けて検討、推進する。
- (2) 環境・健康に配慮した住宅部品の施策等へ対応するため、情報の収集と共有、課題把握と対策の検討を行う。
- (3) 新たな社会要請（脱炭素等）の把握と情報伝達展開を検討する。
- (4) 住宅部品を安全・安心にご使用いただくための点検の普及に向けた活動を推進する。

- (5) 上記(1)～(4)も鑑み、「アメニティ Cafe」掲載情報の見直しを検討する。
- (6) 専門部会、B Lからの課題、協力要請事項に対応する。
- (7) 行政動向や他の業界団体における活動情報、規格・規準の改正状況等を共有する。
- (8) 関連工業会と問題を共有し、連携して課題に取り組むため、住宅部品出荷統計データ作成、製品安全、省エネ、標準化、維持管理等を行う。

2. バスルーム部会 [SDGs 目標：3、6、7、9、12、17]

【浴槽委員会】【浴室ユニット委員会】

- (1) 住宅の省エネ性能向上等に関する浴室関連研究・施策の情報収集と対応方策の検討
 - ① 優良住宅部品の普及促進のため、B Lの認定基準改正等に関し、参加会員の意見の取りまとめを行う。
 - ② 専門部会を通じて新たな情報の収集と共有化を行う。
- (2) 住宅の温熱環境と健康に関する浴室関連の各種研究等の情報収集と、浴室空間の温熱環境、入浴実態、入浴に関連する新たな技術・サービス（IoT、家事負担軽減等）に関する調査・研究および普及啓発
 - ① 「良好な温熱環境実現推進フォーラム」への対応を含め、課題改善に向けた検討を推進する。
 - ② 有識者を招いた勉強会等を通じ、課題認識の共有化と対策の検討を進める。
 - ③ 新たな商品、技術、サービスの実情を実際の使用場面、生産場面などを通して理解の進展、活用の検討を進める。
- (3) 次世代住宅、住宅部品に求められる IoT、家事負担軽減等の新たな技術・サービスに関し、浴室に関連する国や関係機関の研究、施策等の情報収集等
 - ① 上記課題推進に適した施設・工場等の見学会等を実施する。
 - ② 上記課題に関連したホームページ情報（「アメニティ Cafe」等）の確認を行い必要に応じて更新を進める。
 - ③ 「2023 年度版 住宅部品統計ハンドブック」への対応を行う。

3. リビングルーム部会 [SDGs 目標：11、12、15、17]

【階段・はしご段委員会】【内装システム委員会】【内装ドア委員会】

良質な住宅部品の供給・普及、優良住宅ストックの形成など、「Ⅱ. 主要活動事項」に基づき、住宅政策等の情報の共有化、製品情報の発信を行う。

- (1) 優良住宅部品の普及促進
 - ① B L認定基準作成・改訂と普及策の検討、部品のP Rおよび専門部会の活動に協力する。
 - ② 委員各社の商品機能や施工の周知に関する Web や動画の各社の活用に関して情報共有をする。
- (2) 合法的な木材調達の促進を目的とするクリーンウッド法の5 年目の見直しについて情報収集を行い、状況に応じて「建材・住宅設備メーカーのためのクリーンウッド法運用ガイド」の改訂を行う。また、住宅部品 VOC 表示ガイドライン、クリーンウッド法運用ガイドの適切な運用と普及で、安全で合法的な木質材料の

採用に努める。

(3) 『住宅部品の点検』を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献

① 「自分で点検！ハンドブック」の改訂や、安全な使い方やメンテナンス、リフォーム需要の顕在化につながるリビング関連部品の情報提供を行う。

② 「内装建材の警告表示ガイドライン」の警告表示を「アメニティ Cafe」に展開し、消費者の安全な使用につなげる。

(4) 国土交通省施策や法令等の改正について、情報収集とリビング関連部品に関する情報発信を行う

(5) リビング関連部品に関して、「ALIA こども応援プロジェクト」に係る情報発信や、ALIA NEWS、「住宅部品統計ハンドブック」、ホームページ、「アメニティ Cafe」などの媒体を用いた情報提供と普及促進を行う。

4. キッチンルーム部会 [SDGs 目標：6、7、11、12、17]

【キッチンシステム委員会】【調理用加熱機器委員会】

「Ⅱ. 主要活動事項」に基づき、参加会員に役立つキッチンの調査・研究を実施し、業界発展の一助とする。

(1) 物価高騰に対するキッチン周りの意識調査

ガス、電気、食品他、様々な物価が高騰している。これに対して、一般消費者は調理・食事・住環境に関して、どのように意識し対応しているのか？していないのか？または、対応したいのか？物価高騰による意識変化とそれに呼応する対応（具体的な方法・やりたいこと）について調査し、SDGs も絡めてキッチン空間・調理環境に求められている変化を考える。

(2) B L 事業の当部会に関わる規格・基準の改定等への協力

(3) 「アメニティ Cafe」キッチンサイトの一新

(4) キッチン環境と施工に関する現況把握と、新たな需要調査のため、リフォーム関連事業者との情報交換・勉強会を実施する。

(5) キッチン空間に係る関連施設を視察し知見を深める。

5. 住宅情報部会 [SDGs 目標：7、9、12、17]

住宅情報システム委員会、テレビ共同受信機器委員会、火災・ガス警報委員会の個別活動を基本としつつ、必要に応じて3委員会に関連した講演会、施設見学会、研修会等を企画し情報・課題を共有する。

【住宅情報システム委員会】 [SDGs 目標：7、9、12]

「Ⅱ. 主要活動事項」にある「住宅の省エネルギー化及び環境変化への対応」と「住宅、住宅部品に関わる新たな課題への対応」を受け、住宅情報システムに関わる課題を整理・共有し意見交換を行う。

(1) 各社の IoT 事例紹介等を通じ IoT に関する知見を広め、課題の共有と対応策について検討する。また環境変化への対応に関する情報交換を行い、委員各社の取り組みや今後望まれる項目について共有する。

(2) 建築物省エネ法や ZEH の促進事例の情報収集と、導入施設の見学を通じて知見を広める。(IoT 住宅やサステナブル建築物の見学会の実施)

- (3) 高齢者を中心とした住まう人にやさしい住宅情報システムのありかたの検討を進める。
- (4) 消費者認知を目的として、「アメニティ Cafe」を更新し、住宅部品に関わる最新情報を発信する。

【テレビ共同受信機器委員会】 【SDGs 目標：9、12、17】

「新 4K8K 衛星放送」は 2018 年 12 月 1 日の放送開始から 4 年が経過し、視聴が可能な機器台数は 1,400 万台を超えて普及が進んでいる。しかしながら、既存の集合住宅などにおける「新 4K8K 衛星放送」対応受信システムへの改修は遅れている。このため、既存設備を改修する際の課題などについて検討し、課題を解決するための検証を行っていく。また、長きにわたり安心して使い続けられるインフラを提供するための企画検討を行い、情報を発信していく。このため、2022 年度と同様に委員会傘下に技術 WG、普及 WG、統計 WG を設けて効果的な活動を行うとともに、関連業界団体とも連携し情報共有を図る。

- (1) 市場に多く存在する既存の集合住宅における「新 4K8K 衛星放送」の改修工事に対応するため、2022 年度新たな B L 部品として高出力型ブースタと直列ユニットの提案を行った。これらの機器を用いたシステムにおける課題の検討を行うとともに、新たなシステム提案を行うための検証などを行う。
- (2) 「つくる責任」として、長きにわたり安心して使い続けられるインフラを提供するため、新設の集合住宅のみならず既設の集合住宅などにおいても、「新 4K8K 衛星放送」対応の受信システムに改修することで、住宅の資産価値の向上や安心して使い続けられるインフラの提供を目指す。
- (3) 新 4K8K 衛星放送の受信システムへの理解を深めて頂くとともに、B L 部品の周知、採用を図り、長きにわたり安心して使い続けられるインフラを提供するための普及活動を関連団体と連携しながら行う。

【火災・ガス警報委員会】 【SDGs 目標：11、12】

当委員会活動を通じて委員相互の情報共有や意見交換を行い、社会情勢の変化に伴う住宅部品へのニーズの変化を的確に捉え、以下の主題課題について取り組む。

- (1) 社会情勢変化、法・制度等の改正への対応及び要望
 - ① 超高齢化社会、国内人口減少、空き家率上昇等、今後の社会情勢の変化に伴う諸課題をタイムリーに捉え、住宅の安全高度化に向けて、住宅用火災警報器や火災・ガス警報器が果たすべき役割について情報共有及び意見交換を行う。
 - ② 義務化から 10 年を迎えた住宅用火災警報器の確実な更新に向けた施策等と、火災・ガス警報器市場の品質を維持・向上させるために必要な取り組みについて、情報共有及び意見交換を行う。
- (2) 更なる普及促進に向けた取り組み
電池式ガス警報器をはじめとする火災・ガス警報器や無線連動型住宅用火災警報器の更なる普及に向けた技術革新（機能拡充等）ならびに広報活動に関わる市場情報を共有し、今後の対応について検討を行う。
- (3) 「アメニティ Cafe」への情報追加
新しいタイプの警報器が商品化された場合には、「アメニティ Cafe」内に新し

いカテゴリーの追加ならびに設置位置等の情報の掲載を検討する。

(4) 情報の収集と発信

- ① 住宅火災に関する研究論文等を通じ、委員の知見を高めるために必要な情報を収集・共有するとともに、総務省消防庁、日本火災報知機工業会、ガス警報器工業会が発信する最新情報も踏まえ、ALIA NEWS 等を通じての情報発信を継続する。
- ② 住宅内で普及が進む IoT 機器との融合や連動等、住宅の安全高度化に向けた会員各社の情報共有及び意見交換を行う。

6. 給湯・暖冷房部会〔SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17〕

2050 年カーボンニュートラルの実現、その手前の更なる省エネ推進や着実な低炭素化、安全・安心・健康も含めた良質な住宅ストックの形成など、住宅用の給湯・暖冷房機器に関係が深い社会情勢や国の政策動向、業界情報などを共有化するとともに、高効率で付加価値の高い給湯・暖冷房機器および関連住宅部品の普及促進、市場変化への対応検討、関連事業者の知識スキル向上を図ることが重要と考える。

上記に関し、当部会傘下の委員会の連携支援、課題や意見等の共有・とりまとめ、有用な情報発信等を実施する。

- (1) 傘下の委員会活動の更なる充実を目指して、タイムリーなテーマを選定し、有識者等による講演会・勉強会を企画・実施する。
- (2) BL「住宅における良好な温熱環境実現推進フォーラム」や「人生 100 年対応住宅部品研究会」での活動を通じ、一般ユーザーへの普及・啓発活動およびその検討に貢献するとともに、BL-b s 部品をはじめとした優良住宅部品の普及促進に努める。
- (3) 委員会がガス・石油・電気・太陽熱に分かれ、更に給湯と暖房に分かれる等多岐に渡ることから、各委員会の横の連携を深め、一体感のある政策提言にもつなげるため、年 2 回程度（上期、下期各 1 回）部会を開催し、情報交換・調整等を図る。

【ガス給湯委員会】【石油給湯委員会・ソーラーシステム委員会】

〔SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17〕

(1) 住宅の省エネルギー化・脱炭素化への対応

- ① 住宅の省エネ推進および ZEH の更なる普及、脱炭素化に関する政策動向等の情報を共有化し、今後の給湯機器の性能・機能の向上、高効率給湯機器の普及拡大に向けた取組み、推進施策や省エネ評価手法等のあり方について意見交換、検討する。
- ② 必要に応じて、参加会員や関係団体等へのフィードバックや、他団体ルートも活用しながら国への意見主張等を行う。

(2) 優良住宅部品の普及促進等

- ① BL-b s 部品をはじめとした優良住宅部品の普及促進に努める。
- ② 適宜、「アメニティ Cafe」の関連情報を確認し、必要に応じて内容を更新し情報発信の充実化を図る。

(3) 良質な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大

- ① B L 「住宅における良好な温熱環境実現推進フォーラム」や「人生 100 年対応住宅部品研究会」での活動を通じ、関係業界や一般ユーザーへの普及拡大および啓発策について意見交換・検討する。
 - ② 良質な住宅ストックの形成に向けた住宅政策動向等について共有化し、今後の取組み等について意見交換・検討する。
 - ③ 必要に応じて、参加会員や関係団体等へのフィードバックや、他団体ルートも活用しながら国への意見主張等を行う。
- (4) その他
- ① 当委員会に関連する重要な情報や課題について適宜共有化を図り、新たな活動につなげる。
 - ② 委員の知識向上につながる研修会や移動委員会を企画・実施する。
 - ③ 各専門部会や他の委員会等の活動に対して積極的に協力するとともに、連携した活動を検討する。

【電気給湯委員会】 [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

住宅の省エネルギー化の推進の中で、家庭のエネルギー消費の約 3 割を占める「給湯」分野で高効率給湯機器の普及促進を図ることが重要である。その中でエネルギー効率の高いヒートポンプ給湯機器などの電気給湯システムの普及は、住宅のエネルギー消費の効率化の推進に貢献できる有効な手段の一つとして見込まれている。当委員会活動を通じて社会情勢や国の政策動向、業界情報などを共有するとともに、高効率給湯機器及び関連住宅部品の普及促進、関連事業者の知識・スキル向上を図る。

(1) 住宅の省エネルギー化への対応

- ① 住宅の省エネ基準適合義務化、ZEH 普及などの省エネ性能向上に関する施策について行政や関係団体からの情報収集とその活用に努め、今後の給湯機器のあり方について意見交換を行う。
- ② 給湯機器の省エネ関連基準（建築物省エネ法によるトップランナー基準）の見直し等、国の動向について情報共有化を行い、対応機器の性能・機能の向上および高効率給湯機器の普及拡大に向けた取組み等について意見交換を行う。

(2) 優良住宅部品の普及促進等

- ① B L 部品（電気給湯機）の認定基準に関して情報共有を図るとともに、認定基準改訂作業等に協力する。
- ② 適宜「アメニティ Cafe」の関連情報を確認し、必要に応じて内容を更新し情報発信の充実化を図る。

(3) 良質な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大

良質な住宅ストックの形成に向けた住宅政策、長期優良住宅化リフォーム推進、IoT、住宅の温熱環境に関する研究等の住宅政策について、行政や関係団体からの情報収集と今後取組むべき課題について意見交換を行う。

(4) その他

- ① 当委員会に関連する重要な情報や課題について適宜共有化を図り、新たな活動につなげる。
- ② 当委員会の活性化と委員の知見向上を目的に、見学会・研修会を計画し実施

する。

- ③ 各専門部会や他の委員会等の活動に対して積極的に協力するとともに、連携した活動の検討を行う。

【暖冷房システム委員会】〔SDGs 目標：3、7、9、11、12、13、14、17〕

脱炭素・2050年カーボンニュートラル実現に向け、暖冷房システムの分野において、省エネ・高効率なシステムの供給・普及を推進する。また、環境・健康にも配慮し、温熱環境改善に資する住宅部品の供給・普及を推進する。

加えて、国の施策などの情報、および、新しい技術・サービスの情報を共有し、今後の社会課題への対応について意見交換を行う。

- (1) 建築物省エネ法、ZEH等、省エネ化に関する諸制度およびカーボンニュートラルに向けた取り組みについて、情報共有および意見交換し、住宅の省エネルギー化および脱炭素社会への対応を推進する。
- (2) 住宅の温熱環境と健康に関する各種研究等に協力し、温熱環境と健康に資する住宅部品の普及を促進する。
- (3) BL部品の普及促進 および BL認定基準改定に協力し、優良な住宅部品の供給・普及を促進する。
- (4) 住宅に求められるIoT等、新しい技術やサービスに関する情報共有を行い、住宅部品に関わる新たな課題への対応を検討する。
- (5) 「住宅部品点検の日」活動や、「自分で点検！ハンドブック」を通じて、点検に関する普及活動を推進し、優良住宅ストック社会実現、リフォームへつなげる仕組みを構築する。また、国のリフォームに関する施策を情報共有する。
- (6) 「アメニティCafe」などを通じ、消費者知識・浸透につながる、住宅の暖冷房システムに関する情報を発信する。

7. 開口部会〔SDGs 目標：1、2、3、7、8、9、11、12、13、14、15、16、17〕

- (1) 「Ⅱ. 主要活動事項」の各項目に対し、有効な情報の収集や検討、活用及び発信を行うとともに、脱炭素・2050年カーボンニュートラル実現、こどもの安全・安心等の社会的要請への対応を重視した活動を推進する。
- (2) 部会内の委員会組織について、商品開発等の実情を踏まえ、再編成について検討を行う。
- (3) 国のリフォーム関連施策の情報及びリフォームに関する新技術・消費者ニーズなどに関する情報を収集し共有する。

【スチール部品委員会】〔SDGs 目標：3、7、12、13、14、16、17〕

- (1) BL部品の普及促進、BL部品認定基準の改正等への協力
- (2) 「住宅部品統計ハンドブック」への情報提供（鋼製建具・錠前出荷統計数及び動向）
- (3) 2050年カーボンニュートラル実現に向け、建築物省エネ法、ZEHなど省エネ性能向上に関する施策の情報を収集・共有し、玄関ドアの方向性を検討
- (4) 「自分で点検！ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」の利用を推進し、点検の必要性、経年劣化について、消費者認知、啓発の促進

- (5) 会員各社の「こども食堂」への商品等の提供についての活用状況の調査・推進
- (6) こどもの安全・安心を守る活動として、高付加機能付き玄関ドア、錠前等の情報発信(防犯、換気機能、電気錠等)
- (7) ALIA NEWS、ホームページ、メールマガジン等への情報提供

【手すりユニット委員会】【補助手すり委員会】 [SDGs 目標：11、12、17]

- (1) 「歩行・動作補助手すり」「高強度パネル手すり」「隔板」のB L認定品の普及促進
- (2) 社会の資産としての住宅ストックの形成・活用に結び付ける取り組みとして、「墜落防止手すり」について、長期的に使用できる仕様や施工方法などの対策が行われる製品の検討と対応。
- (3) 「墜落防止手すり」「補助手すり」における「定期点検」の具現化への取り組み。
- (4) 「ALIA こども応援プロジェクト」に関連して、こどもの安全・安心を守る活動や、こどものベランダからの転落防止のための手すりの安全対策の検討。
- (5) 「アメニティ Cafe」を活用した会員及びユーザーへの情報発信。
- (6) 「住宅部品統計ハンドブック」に掲載するための出荷統計データの収集。

【断熱型サッシ委員会】

[SDGs 目標：1、2、3、7、8、11、12、13、14、15、16、17]

- (1) 住宅の省エネルギー化への対応
 - ① カーボンニュートラルに向け建築物省エネ法・ZEH など省エネ性能向上に関する施策の情報を収集し共有するとともに、課題の把握及び対応方策の検討を行う。
 - ② 窓の熱性能審査委員会と連携し、「WindEye」の利用拡大に向けた使用実態・課題などを整理・分析し、普及促進活動を推進する。
- (2) 優良住宅部品の普及促進等
 - B L-b s 部品を含むB L部品の普及促進を図るため、市場要望に合った認定制度となるよう情報を収集し発信していくとともに、B L部品認定基準の改正などへの協力を行う。
- (3) 当委員会の活動範囲について、時代の変遷や部品体系の複雑化、材質の多様化等により、活動の内容がマッチしていない状況が発生しており、その解消のため、組織再編成についての検討を開口部会に働きかける。
- (4) 情報の収集と発信
 - ① 「アメニティ Cafe」からユーザーが望む情報を発信できるよう、掲載内容の見直し検討を継続する。
 - ② 省エネ対策及びリフォームに関する新技術の事例などの視察を行い、成功事例及び課題などの情報を収集し共有する。
- (5) 「ALIA こども応援プロジェクト」の推進に向けて、断熱型サッシに関連する調査・検討や活動の役割を担う。

【アルミサッシ委員会】 [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1) 建築物省エネ法・ZEH など省エネ性能向上に関する施策などの情報収集と共有
- (2) 事業者が使いやすいB L部品の提案と認定基準改正作業の協力

- (3) 住宅部品の基礎知識を幅広く紹介するため、「アメニティ Cafe」などの改訂をタイムリーに行い消費者への認知・啓発を促進する。
- (4) 下記について、継続的に最新情報を収集し内容の深堀と課題抽出及び今後の方向性について検討する。
 - ① 換気機能付きサッシ、ドアなど（省エネ効果、感染予防対応）
 - ② 抗菌・抗ウイルス基準適合建材（ドアノブ、ドアハンドルなど）
 - ③ 防災・レジリエンス対応（防災シャッター、止水板、防災安全ガラスなど）
 - ④ 窓・ドアの断熱改修（外窓交換、内窓設置など）の省エネ効果や課題など
- (5) 「住宅部品点検の日」の点検普及活動への協力と「ジュウテン」サイトの普及促進とともに、「自分で点検！ハンドブック」や「住宅部品 経年劣化スタディブック」などのツールも活用し、点検に関する普及活動を推進する。
- (6) (一社) 日本サッシ協会、(一社) 建築開口部協会などの関連団体と温熱／省エネ、点検／リフォームなどの情報共有を図り普及・啓発を進める。

8. 外皮部会 【SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17】

「Ⅱ. 主要活動事項」にある「住宅の省エネ化・温熱環境整備に資する住宅部品の普及促進」にそって、脱炭素・カーボンニュートラル実現に資する高性能・高耐久な外皮仕様の普及を図る。また、外皮の性能向上、とりわけ省エネルギー性能の向上のために関連する法律、施策に関わる情報収集、周知、推進、及び要望事項の取りまとめに協力する。

(1) 高性能な外皮仕様の普及啓発

① 消費者向けツールの作成

これまで作成した「外皮ってなに？」パンフ、PPT 資料をベースにテーマ毎に消費者向けツールとして内容の追加・再構成をおこなう。実施に際しては、(公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS) メンバーと意見交換しながら進めることとする。

② セミナー・勉強会の開催

- 1) NACS と連携したセミナー・勉強会の開催（テーマ・コンテンツについては NACS と相談しながら検討。）
- 2) 2022 年度に引き続き工務店・設計事務所向けミニセミナー（+時節に合わせた有識者講演）の実施（実施方法は、WEBセミナーも含めコロナの状況を考慮しながら検討。）

(2) 2022 年度に作成した内容を「アメニティ Cafe」に掲載する。

(3) 情報収集

- ① 2050 年カーボンニュートラル実現に向けて、省エネ基準の義務化、各種補助施策など、国や地方公共団体などの関連施策などの情報を収集・共有し、部会としての要望事項の取りまとめを行う。
- ② 外皮性能向上のために、学識経験者などを招いて勉強会を開催する。また、ZEH ビルダーなど住宅生産者や関連メーカーなどの視察を行う。（実施方法は、コロナの状況を考慮し、オンラインでの勉強会・視察・インタビューなども併せて検討。）

9. 共同設備部会

【給水ポンプシステム委員会】〔SDGs 目標：12〕

- (1) 給水ポンプシステムの維持管理の重要性啓発活動
東管ニュースへの広告掲載や点検チラシの配布により、予防保全・保守点検の重要性について市場に対し啓発する。
- (2) B L制度の改定、改正への協力
 - ① 給水ポンプのB L規格の改訂検討に協力する。
 - ② 通信機能を有した、B Lー b s 規格製品のPR 活動を推進する。
- (3) 会員各社の見識を広げるため、見学会及び移動運営委員会を実施する。
- (4) 「アメニティ Cafe」について、現行の掲載内容を精査し、新製品情報等を更新するなど、充実を図る。

【給水タンク委員会】〔SDGs 目標：11〕

- (1) 「給水タンク安心支援サービス」の運用
 - ① 水槽診断の推進
 - ② 登録率の向上に向け、ユーザー（マンション管理事業者等）への制度PR と維持管理の重要性の啓発を行う。
- (2) 各種給水タンクの出荷実績調査（半年に1回）と「住宅部品統計ハンドブック」への記載
- (3) 水槽の重要性の広報活動として、各種団体、講演会、シンポジウム等への参画
- (4) 「アメニティ Cafe」の「給水タンク」の継続的改善
 - ① 新水槽ビジョンのPR
 - ② 水槽維持管理のPR 改善検討
- (5) 震災対策をはじめとした社会要請の動向把握と、給水タンクに求められる新機能調査及び検討

【エレベーター委員会】〔SDGs 目標：9、12〕

- (1) エレベーターにおける課題・社会要請への対応
 - ① エレベーターに関わる社会的な課題や要請を調査・整理する。
 - ② 「アメニティ Cafe」を更新し、消費者認知・浸透につながる情報を提供する。
 - ③ 他の住宅部品メーカーのショールーム等を見学し、新技術や社会的な取組について情報収集を行う。
- (2) 関係法令改正及び基準等制定への対応
2023年度において、関係法令が改正された場合、B L基準との整合化を図る。
- (3) 関係省庁・団体からの依頼事項への対応
国土交通省、B L等からの依頼事項があった場合、適宜対応する。

10. アウトドア部会

【屋外収納ユニット委員会】〔SDGs 目標：12〕

- (1) 小規模な倉庫の関連法規に関する調査・研究の一環として、鋼製物置に求められる地震力に対する耐久性の調査・研究を行っている。まずは想定される地震力

をベースに加振試験を行い、現状における実力値の把握及び分析を行い、2回目を予定している試験に反映させる。

- (2) ガレージに関する購入前に必要な情報及び点検項目等の情報を検討し、工業会ホームページやALIAホームページへの掲載を行う。
- (3) 「鋼製物置・鋼製ガレージのご購入に当たって」の内容を踏まえ、「アメニティCafe」掲載内容の見直しを行う。
- (4) (一社)プレハブ建築協会の要請を踏まえ、応急仮設住宅向けの屋外収納ユニットの生産供給可能数について協議し定期的に報告をする。
- (5) 会員各社の見識を広げるため、見学会及び移動委員会を実施する。

【郵便受箱委員会】 [SDGs 目標：9、11、12]

インターネット通販市場の拡大により郵便物（メール便含む）も増加している。また、近年発送側の規格サイズが大きくなり郵便受箱に収納できない事に起因するトラブルが発生している。供給者（メーカー）側は製品を設計するにあたり収納する郵便物のサイズを明確化する必要があり、発送側や受取側のニーズも多様化している事から現状調査が必要である。よって、これら社会情勢の検証を行いBL基準が重要視している保安性との関係や課題を抽出し、今後の郵便受箱のあり方を検討する活動を行う。

また、メンテナンスに関する情報提供の効率化の検討を行う。

- (1) 社会情勢変化への対応
 - ① 郵便物（メール便含む）のサイズが多様化されている事から現状把握とBL基準が適しているかの検証と見直しが必要な問題点の抽出
 - ② 日本郵便・ヤマト運輸・佐川急便などを招いて意見交換会の実施
- (2) 長期使用時の安全・安心な住宅部品のあり方の追求
BLお客様相談室の連携サポート（製品情報・部品情報の提供）
- (3) 情報の収集と発信
 - ① ALIA NEWS への積極的な参加
 - ② 郵便受箱の出荷統計の実施と分析
 - ③ 参加会員委員との親睦と情報交換

【宅配ボックス委員会】 [SDGs 目標：7、8、9、11、12]

安全・高品質な優良住宅部品を提供し、世界的にウィズコロナに向かう中で、引き続き非対面での荷物の受け渡しツールとして注目される宅配ボックスの更なる普及促進によって、環境負荷削減の推進とともに安全・安心をもたらすことを方針とする。

- (1) 普及・促進活動
 - ① 宅配物再配達削減を目的とし、宅配ボックス普及促進継続
 - ② 優良住宅部品（BL認定品）の普及促進
 - ③ 宅配ボックスのリニューアル促進
 - ④ 既存物件、戸建て物件への普及促進
 - ⑤ 非対面で安全・安心に荷物を受け渡しできるツールとしての宅配ボックスの普及促進と利用促進

(2) 社会情勢への対応

- ① 政府及び国が主導する環境・経済課題解決施策への対応（こどもエコすまいる支援事業等への対応フォロー）
- ② 流通事業者や配達事業者との情報交換を通じた更なるニーズの掘り起こし
- ③ 長期使用を配慮した安全・安心な宅配ボックスのあり方の検討
- ④ 新たな技術・サービスによる宅配ボックスのあり方の研究

(3) 情報収集・分析と発信

- ① 宅配ボックスの出荷統計の実施と実態調査
- ② 宅配ボックスの荷物預かり個数統計の分析
- ③ 地方自治体が提供する宅配ボックス普及策の状況確認
- ④ 住宅以外の設置状況の調査
- ⑤ 宅配ボックスに連動した商品の市場動向分析
- ⑥ ALIA NEWS への新製品情報掲載
- ⑦ 半導体不足による宅配ボックス普及への影響観察

11. 換気・配管システム部会

【換気ユニット委員会】〔SDGs 目標：3、7、12、13、14、17〕

新型コロナウイルス流行により換気への関心・意識がより高まっている。住生活空間の空気を快適、清浄にするために換気設備が果たす役割はより高まってきている。人々の快適性や健康性が維持できる様に、適切な換気設備やその維持管理を訴求していくことが大切である。

そのような状況を踏まえ「適切な換気設備の情報共有、商品情報・維持管理情報の普及促進」との方針で活動を行う。

- (1) 環境・健康に配慮した換気設備の訴求
省エネ・快適性配慮商品の更なる訴求を行う
- (2) 安全・安心な換気設備のあり方の訴求
換気設備に関わるメンテナンスの必要性や重要性に関わる情報発信
- (3) 情報の収集と共有
 - ① 建築物省エネ法、ZEH など省エネ性能向上に関する施策について、情報収集、課題把握、対応方策の検討
 - ② 換気に関する実験を行い、換気に関する実態把握と、より効果的な換気手法の訴求・PRにつなげる（※3種換気に関する試験を予定）
 - ③ 活動にあたり、有識者との情報交換、関連施設見学を行い見識を深め、より充実した情報発信につなげる。

【配管システム委員会】〔SDGs 目標：9、12、17〕

サヤ管ヘッダー工法の普及を念頭に、委員会内で意見交換を行う。また、委員会の知見を広げるために情報収集活動を行う。

- (1) 使用者がBL保険について深く理解出来るように、配管システムに於ける保険適用範囲を再確認して、具体的な事例の発信を検討する。
- (2) 幅広く他業界の専門家や団体と接点を構築し、配管システムの耐久性や点検交換について、情報の共有を試行していく。（各種専門家へ講演会の依頼や視察活

動など。)

Ⅶ. その他の委員会

1. 窓の熱性能審査委員会 [SDGs 目標 : 7]

(1) WindEye の普及促進

- ① TB2D/BEM の講習会実施
- ② 断熱型サッシ委員会と協働での他団体への PR

(2) WindEye の定期的なバージョンアップ

- ・住宅設計者からの意見集約とそれに基づく改良案の作成

(3) WindEye の新機能開発

- ① 「逆引き計算機能」の機能向上・充実
- ② 各WG開発案件より検討 (2022 年度ガラスWG 提案含む)

2. 統計ハンドブック編集PJ [SDGs 目標 : 12]

住宅部品に係る市場動向と市場規模の変化を的確に把握するため、統計データを時系列に収集・整理し、今後の市場動向を加味した「2023 年版 住宅部品統計ハンドブック」を作成し、会員各社をはじめ関係団体等に広く情報提供する。